

第5講 マルサスとリカード

❖ Thomas Robert Malthus (1766-1834)

An Essay on the Principles of Population, 1798

Principles of Political Economy, 1820.

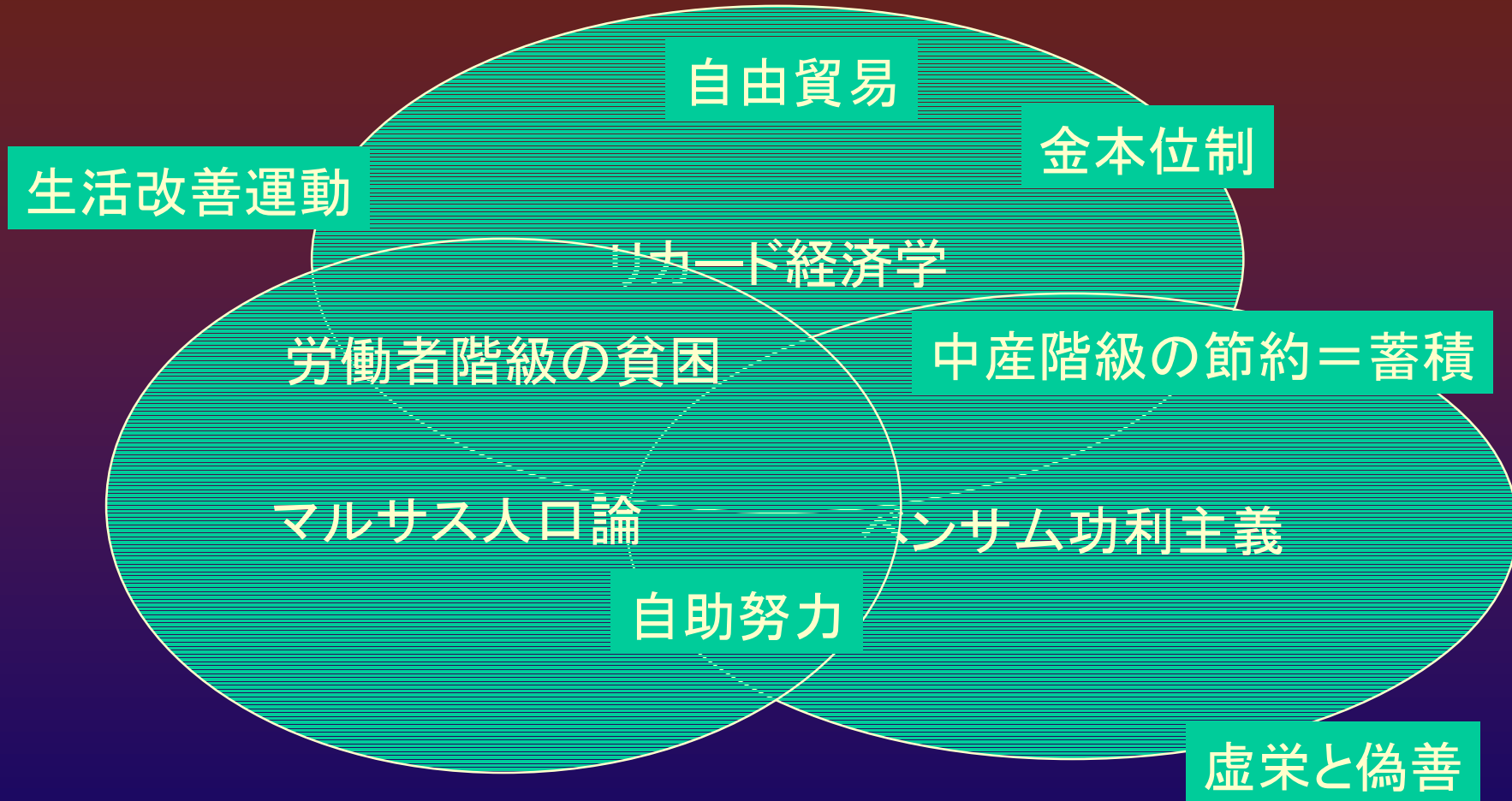
❖ David Ricardo (1772-1823)

The High Price of Bullion, 1810

An Essay on the Influence of a Low Price of Corn on the Profit of Stock, 1815

On the Principles of Political Economy, and Taxation, 1817.

1. 19世紀の資本主義像





2. マルサスの呪い

- ❖ 初版『人口論』(匿名)1798年
- ❖ 2つの公準(1. 食物は人類の生存に必要である。2. 両性間の情欲はだいたい今のままでありつづける。)→人口は制限されないかぎり幾何級数的に増加するが、人類の生活資料は算術級数的にしか増加しない。→人口増加の制限には、窮乏と悪徳が伴う。
- ❖ 1803年以降の版では、より、実証的になり、また「道徳的抑制」を認めるようになった。
- ❖ 労働市場論(賃金論)への影響



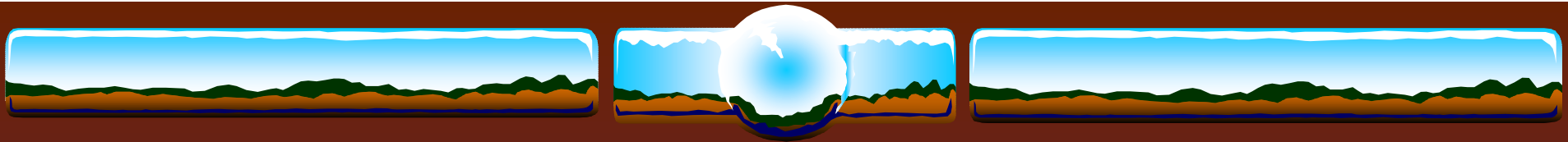
3. 地金論争

- ❖ 兌換停止のもとでの物価騰貴とスターリング為替の価値下落(ポンド紙券と金地金の価値の乖離)への対応
- ❖ 地金委員会は、流通銀行券を減らして、金との価値の乖離をなくして兌換再開を目指すべきだと主張。銀行券の発行は必要に応じたものだとする銀行家はそれに反対(反地金主義)
- ❖ リカードは前者に組する。1840年代の通貨学派(金貨の流通を基準として銀行券発行量をコントロール)。反地金主義は銀行信用の柔軟性を認める銀行学派につながる。



4. 穀物法論争

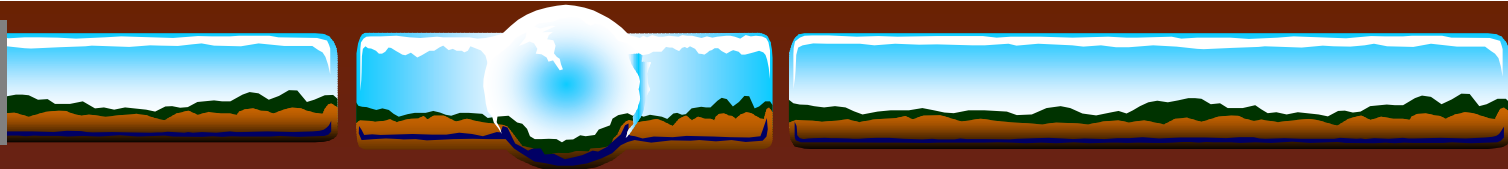
- ❖ 対仏戦争の終結と豊作による穀物価格の急落→輸入関税による農業保護法案(1815年)をめぐる論争
- ❖ リカードは穀物法に反対(自由貿易→低穀価→高利潤→資本蓄積→繁栄)。マルサスは条件付支持(国民の安全の確保。農・工のバランス。農業所得は工業への有効需要になる)。
- ❖ リカードのビジョン(貨幣ヴェール観=実物経済重視、自由貿易=国際分業論、低賃金=高利潤による資本蓄積)←→マルサスの地主国家的ビジョン



5. 『経済学および課税の原理』1817

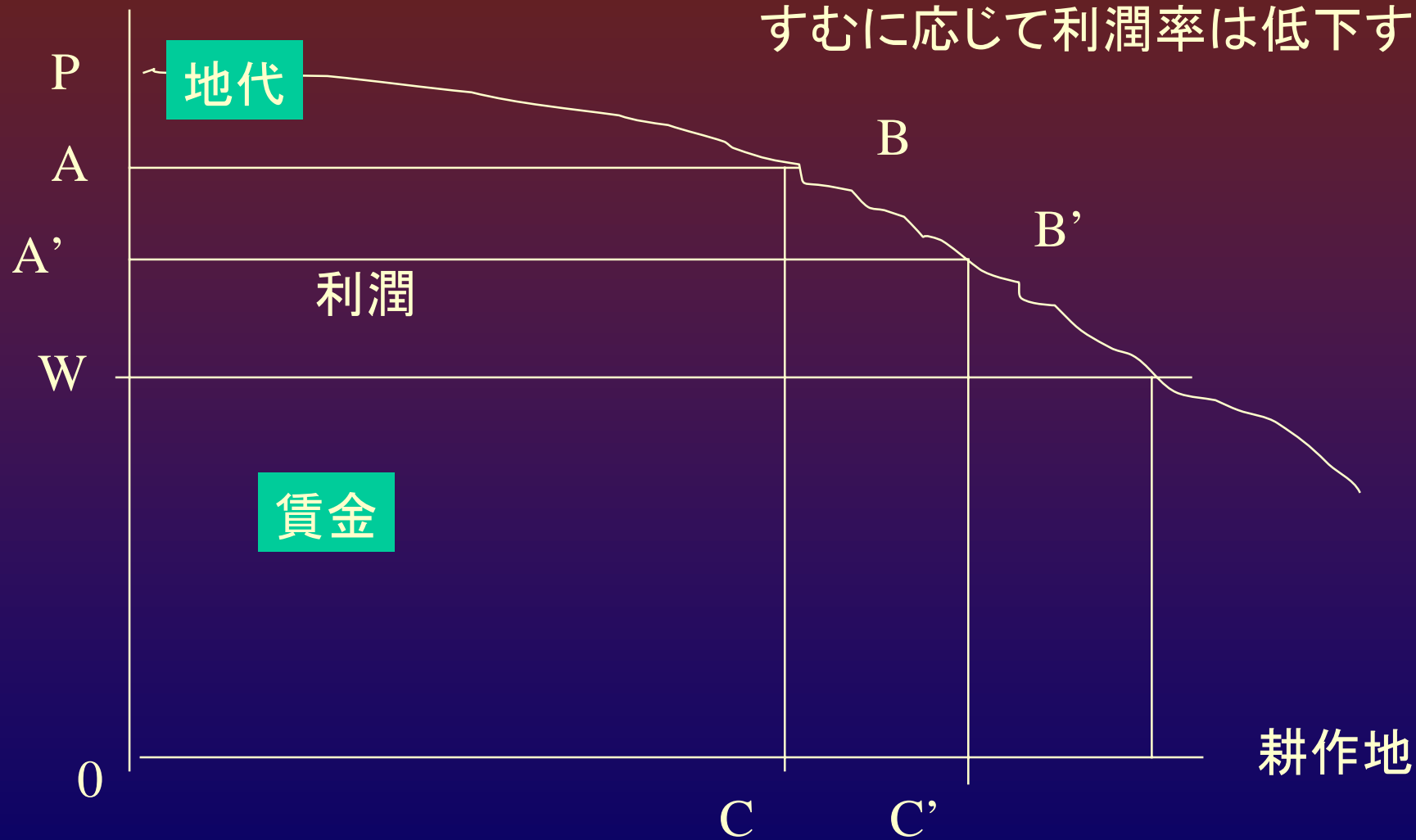
- ❖ 「大地の生産物—つまり労働と機械と資本とを結合して使用することによって、地表から取り出されるすべての物は、社会の3階級の間で、すなわち土地の所有者と、その耕作に必要な資財つまり資本の所有者と、その勤労によって土地を耕作する労働者との間で分けられる。…この分配を規定する諸法則を確定することが経済学の主要問題である。」(序文)

YAGI:リカードの利潤率低下論



生産物

資本蓄積とともに耕作拡大がすすむに応じて利潤率は低下する





7. リカードの価値論

- ❖ 「ある商品の価値、すなわちこの商品と交換される他のなんらかの商品の分量は、その生産に必要な相対的労働量に依存するのであって、その労働にたいして支払われる対価の大小に依存するのではない。」(投下労働価値説:賃金の増加は利潤を減らすだけで、価値を増加させるのではない!)
- ❖ 地代の影響は差額地代論で隔離される。資本蓄積の影響は、直接その商品に投下される労働だけでなく、原料・道具・建物などに投下されている労働(間接的に投下される労働)を加えることで処理できる。



8. リカードの価値修正論

- ❖ 賃金上昇の効果→価格の低下する財の出現→不変の価値尺度は存在するか？
- ❖ 交換比率が投下労働の比率に等しくなるのは、流動資本と固定資本の比率、固定資本の回転期間が等しい場合のみ
- ❖ 1期前に2人の労働者を雇用、今期1人の労働者を雇用してできた生産物の価格 $P1=(2w(1+r)+w)(1+r)$ と1期前1人、今期2人を雇用してできた生産物の価格 $P2=(w(1+r)+2w)(1+r)$ は同一にならず、利潤率の変動に左右される。
- ❖ これは、P.スラッファ『商品による商品の生産』1960によって解決された問題。